

ABC RADIO TIME TABLE

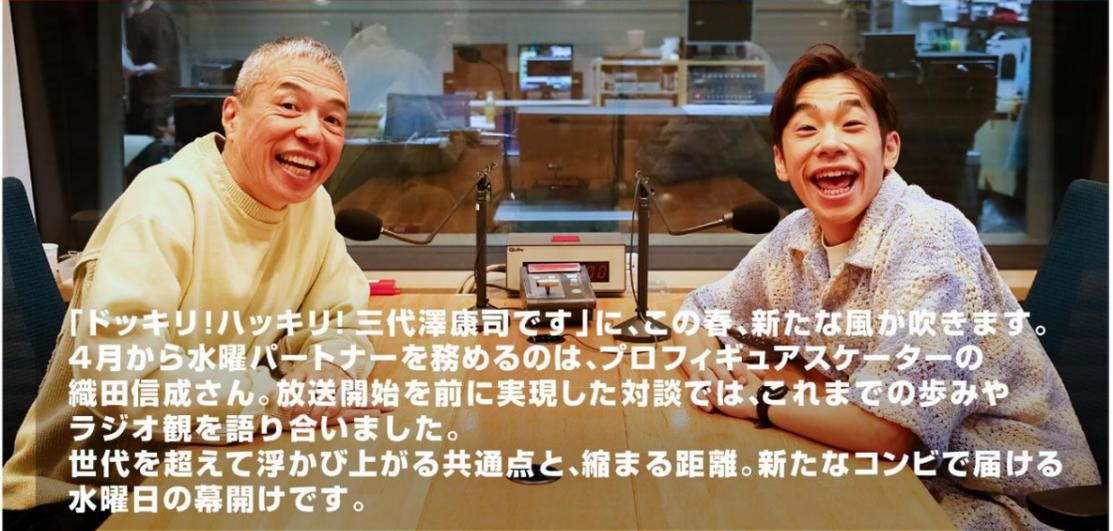
4
2026



4
2026

ABC RADIO TIME TABLE





「ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です」に、この春、新たな風が吹きます。4月から水曜パートナーを務めるのは、プロフィギュアスケーターの織田信成さん。放送開始を前に実現した対談では、これまでの歩みやラジオ観を語り合いました。世代を超えて浮かび上がる共通点と、縮まる距離。新たなコンビで届ける水曜日の幕開けです。

「あなたは絶対に喋り手でいけます」その言葉が現実

三代澤 織田信成さん。ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です!水曜日よろしくお願いします。織田 お願いします。めちゃくちゃドキドキしています。



織田 大きな嘘はつかないですけど、ちよっとした脚色はします。例えば「ストーリー」自体は嘘じゃないんですけど、伝え方は少し変える、という感じです。

三代澤 それはラジオでは必要なことですよ。織田 そうなんです。僕ずっと自分のことを「ほら吹き」だと思ってたんですけど(笑)。ちよっと待って、三代澤さんもほら吹いてるってことなんですか?

三代澤 そうです。織田 嘘!いやちよっと待って、なんかそれはちよっと、ちよっと嫌やったかも。いやいや、三代澤さんは全部本当のこと喋ってくれてると思ってる。ちよっぴやピュアに聞いてました。三代澤 ラジオでも公言していますが、僕の話は7割嘘です。

織田 えっ、結構嘘じゃないですか(笑)。三代澤 要は脚色なんです。「針小棒大」と言いますが、小さな出来事を少し大きくするとぐっと面白くなる。その「種」を膨らませるのが仕事だと思っています。

織田 それ、すごく分かります。僕も、小学5年生のときにフィギュアスケートでフワワーホイをやっていて、四大陸選手権で大好きな選手に花を渡したんですけど、嬉しすぎてテンション上がって、選手に花を渡すときにおしっこが出ちゃったんですよ(笑)。

三代澤 (笑)

三代澤 僕と初めて会ったときのこと、覚えていますか?
織田 番組にゲスト出演させていただいた時よりも前ですよ。
三代澤 そう。その前に一度ゲストで来ていただいたときなんです。
織田 その前ですか?何かの宣伝で来てさせていただきましたよね。
三代澤 アイスショーの宣伝でした。そのときスケーターとしての織田さんは知っていましたが喋り手としての織田さんはまだキャリアがスタートしてなかったので知らなかったんです。織田 そうですね。当時はアスリートとしての活動が中心で、メディアでお話しする機会もあまりなかったです。
三代澤 その時に僕、「あなたは絶対に喋り手でいけます」って言ったんですよ。
織田 マジですか!?



三代澤 はい。
織田 めちゃくちゃ嬉しいです。
三代澤 その後、いろんなところでお喋りの仕事をされるようになって、やっぱり僕の言っていたことは間違ってたかなって。ご本人もやっぱりその道に進まれたんだなと思いました。織田 嬉しいです。もうそんな「関西のドン」の三代澤さんに認めていただけるなんて。三代澤 いやいや。

織田 実際は7割くらいなんですけど、3割足して「全部出ました」って言った方が面白いじゃないですか。何もないとこで嘘をつくのはダメですけど、本当にあったことを少し大きくして伝える。それが脚色だと思っています。三代澤 もうラジオのパーソナリティとしてはピタリだと思う。



20年続けてきたシンプルなお習慣とは
織田 どうして20年も続けてこられたんですか?長時間ですし、体力的にも大変だと思っ
三代澤 それは、準備しない、反省しない、残業しないからです。
織田 素晴らしいと思いますけど、反省もしないんですか?そこはちよっと違うかも知れない。
三代澤 僕らの仕事って、点数がつくわけじゃないので、他人から「あそこはこうした方がよかったです」と言われるのは、その人の感性なんです。よかったです。自分の中で「あそこはこうした方がよかったです」。「もう一つ言えよ」というのは、その瞬間に気づくんです。気づければ、次は同じことをしないじゃないですか。気づく。それで次はやらない。それでいいんです。織田 その、自分で気づく反省、みたいな、「あ」という反省はあるんですか?

「ただただ、仲良くなりたいたい」距離を縮めることから始まる水曜日

三代澤 「ドキハキ」水曜日のパートナーとしてやってみたいことや方針はありますか?
織田 方針はあまり考えていなくて、ただただ三代澤さんと仲良くなりたいたいと思ってます。どういふ距離感でいいのかわからない。まだ探っているところですが、今はお互い肩書きで見ている部分もあると思うので、もっと心の距離を近づけていけたらいいなと。それがどんな形でもいいと思っていますし、「ほくない火曜日」のTJ(高野純一)さんとも最初はぎこちなかったですが、途中からは喧嘩もできる関係になったので。三代澤さんとは絶対に喧嘩しないと思います(笑)。
三代澤 僕はこの番組「ノーブラン」でやっていて、気づけばもう20年以上続いています。雰囲気としては、朝の商店街の喫茶店なんです。商店街のおおちゃんやおばちゃん、仕事に行く途中のお兄ちゃん、近所に住んでいるおばあちゃんやおじいちゃんが集まってくる。モーニングを食べながら新聞を読んだり雑談してそこに周りの人も加わってくる。そんな空気なんです。織田 素敵ですね。



三代澤 だからそれは反省じゃないんです。織田 「気づき」ですね。
三代澤 そう。「気づき」。その場で「あ、しまった」と思って、次はやらない。それだけです。織田 小さな修正、ということですね。
三代澤 そう。わざわざ反省のために反省会したりするでしょう。僕はあるが一番嫌い。テレビのワイド番組でも一度も反省会をやらなかったですね。
織田 僕はTJとの番組でめちゃくちゃ反省会やっています。



「任せてください」新しい水曜日が動き出す

三代澤 織田さん、おいくつでしたっけ?
織田 39になります。
三代澤 うちの娘とほぼ同い年なので、ちょうど親子くらいの年齢差ですね。僕はこの4月で66になります。
織田 ひっくり返りました。若すぎるなと、すごくお元気です。素敵だなと思いました。
三代澤 声だけは大きいですけど(笑)。
織田 でもこの年齢差の中で、どう距離を縮めていくかは大事ですね。興味を持つことや日々の話題も違うと思うので、僕自身がどれだけ三代澤さんの話に興味を持って、しっかり

覚えてくれている、

それがラジオリスナーとつながる関係性

三代澤 織田さんは、プライベートなことやご家族のことなどは、どの程度お話しされるんですか?
織田 めちゃくちゃ喋ってます。あまり隠さないタイプですね。年収だけは言っていないかな(笑)。それ以外は全部話しています。
三代澤 なるほど。ラジオって、リスナーがある種「家族」のような感覚で聞いているんですよ。こないだね、この時期は桜が咲くじゃないですか。うちの近くに奈良の信貴山・朝護孫子寺というお寺があって、虎の神様で有名なんですけど、そのハイキング道の途中に桜の木があるので、その桜を、僕は勝手にラジオで、俺のサクラって呼んでいるんです。
織田 勝手に?
三代澤 勝手に。
織田 大丈夫なんです。それ(笑)。所有物ではないけど、俺の近所のサクラ、つまり俺の近所に咲いているサクラを略して...
三代澤 俺のサクラ、って言ってます。そしたら、この間、まったく別の仕事で初めてお会いした方と信貴山の話になって、「三代澤さんって、信貴山に、俺のサクラ、持ってますよね」って言われたんです。いやいや、普通に咲いている桜なんですけど、それくらい、リスナーの方は細かいところまで覚えてくださっているんですよ。あの話も、もう1年以上前にしたことなんです。
織田 すごくいなあ、覚えてくれているんだ。下手なことは喋れないですよ。ね。「ほくない」では、下手なことしか喋ってないんですけど(笑)。
三代澤 嘘は言う方ですか?
「僕の話は7割嘘です」ラジオは「脚色」で面白くなる



食いついていけるかがポイントなのかなと思っ
三代澤 僕は前期高齢者ですけど、これからどうするか考えたときに、僕が憧れているのは西川きよしさんなんです。若手からすればレジエントなのにいじられる。あの姿が理想なんです。
織田 めちゃくちゃ分かります。僕も、「ほくない」の放送中に西川きよし師匠がふらっと来られたことがあって、あの方がこんな小さな番組に来てくれるんだって、すごく驚いたんです。すごい方なのに、それを感じさせないというか、その一つ一つの行動が、愛されている理由なんだらうなって、僕もそういう存在に憧れます。
三代澤 だからね、織田さんのような若い世代に「どんどん突っ込んでもらいたい」って思っています。
織田 分かりました。いじらせてください。任せてください。僕、いじられるのも好きですけど、いじるのも得意なんです。
三代澤 うれしいですね。では4月から楽しい番組にしていきましょう。最後に一言、お願いします。
織田 はい。とにかく、めちゃくちゃやります!頑張ります!よろしくお願いします!